

# 南小だより

[minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp](mailto:minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp)

平成29年10月2日

10月号

さいたま市立南浦和小学校

電話 048-861-3781



## 身に付けさせたい2つの力

校長 笹原 秀之

ついこの間まで、蝉が夏を名残惜しむように鳴いていましたが、気が付けば秋分の日を過ぎ、秋の虫の声にと移り変わっています。灯火親しむ候となり、ゆっくりと読書に浸りたい季節となってまいりました。

さて、サッカー日本代表がワールドカップ出場を決めました。そのオーストラリア戦で先制点を決めた浅野選手の裏への抜け出しからのゴールは練習の賜物でした。

よく、スポーツの団体種目では、目と目で合図して、とか、以心伝心でタイミングを合わせたりして、すばらしいプレーに結びつくことがあります。また、家族や仲間などでも、会話を交わさなくても、しぐさや表情で分かり合えるということもあります。

一時、「付度」という言葉がメディアなどをにぎわせました。決して普段よく使う言葉ではありませんが、相手の気持ちを押し量るといことは、人間同士の関係の中で重要な技能であり資質であると思います。



本校は、11月7日に算数の研究発表を行います。研究主題は「思いや考えを深め、豊かに伝え合う児童の育成」です。子どもたち一人ひとりが自らの思いや考えをもち、それを深める学習を通して、新たに分かったことや考えたことを数学的な言葉や国語などの他の教科で身に付けた表現力を使って豊かに表します。そして、お互いに伝え合うことで、異なった考えを知ったり相手に分かるように説明したりして、さらに思いや考えを深めていく学習を目指してきました。また、そのような力を身に付けた児童を育成しようと研究を進めてきました。

これは、新しい学習指導要領でも示されている「確かな学力の育成にあたって特に重要となる学習活動として、まず、児童の言語活動など学習の基盤をつくる活動を充実する。」というようなことにもつながります。つまり、この研究は、これからも求められ追究していく価値のある重要な研究であると考えます。

最近の言葉遣いの実態を見ると、何でも「ヤバイ!」「ウソ!」「ウケル!」「カワイイ!」等の言葉で済ませてしまう傾向が見られます。みんな同じ言葉を使い、乏しい表現でも通じてしまうところに、安心感をもったり喜びを感じたりして、あえて豊かな言葉を必要としない、または、使うことができない人が増大していることを危惧します。

また、今後さらに、科学技術の進展、国際化・情報化されていく世の中では、以心伝心だけでは通用しません。「イエス!」「ノー!」がはっきりと言えずに相手の行動に合わせているだけでは、押しきられたりだまされたりすることも出てくるかもしれません。しっかり表現できる主体性のある大人に育ってほしいと考えます。

人の気持ちを察する力、非言語的なしぐさや表情、また、それ以前の思いやり、そして、自らの考えを豊かに表現する力は、どちらかだけではなく共に身に付けることで、これからの社会で独り立ちし、国際社会の中で生き抜くことができるのではないのでしょうか。

今後とも、一人ひとりに、その子に応じた指導を行い、必要な力を身に付けさせていくよう努力してまいります。